

一般社団法人 東洋音楽学会機関誌

## 『東洋音楽研究』 投稿の手引き

### 【基本構成】

投稿の基本構成は、原則的に以下の通りとする。

題目

執筆者名

本文

注

引用・参考文献

執筆者所属

外国語要旨

### 【章立て】

原則として、一番大きな単位に「一」、「二」、「三」などの番号をふり、見出しをつける。それより小さな単位には「一—一」のような番号をふり、見出しをつける。さらに細かい単位には「(一)」のようにする。

例

- 一 問題の所在と方法論
- 一—一 研究史の概略
- (二) 第二次世界大戦まで

### 【文字の表記】

日本語の場合、文献の引用・固有名詞などの特殊な場合をのぞき、現代仮名遣い・常用漢字を用いる。また、固有名詞以外の外国語は、できる限り訳語を用い、特に必要な場合は、初出のみに原綴を付する。

### 【数字の表記】

数字は一〇、一〇〇などのように表記し、十、百は固有名詞をのぞいて原則として使用しない(千以上の単位は、漢数字を使用して構わない)。

例

五〇枚組、四〇〇年間、二千年前。

年号については、日本、東洋年号を先行させ、( )内に西暦年号を補う。

例

昭和三十六年（一九六一）、寛永年間（一六二四—一六四四）

【ローマ字の表記】

訓令式とヘボン式のいずれかの方式を統一的使用し、変則的な表記法は用いない。長音の区別をし、その表記には長音記号を使用することが望ましい。

人名表記に関しては、原則としてその本人が用いている表記法を尊重する。本人以外の執筆者が独自に表記法を変える場合には、注などでその旨を記す。

【ルビ等の表記】

ルビ等の表記については、ワープロソフトの機能を使用して構わないが、複雑なものや特殊な修飾については、別途ハードコピーを添える。

【引用の表記】

二、三行以下の短い引用は、改行せずに文中に「」を用いて示す。それ以上の場合には引用文として別に掲げ、引用文の前後に一行分、上に二文字の余白を空ける。

【注の書式】

本文中で、注が存在していることを示す場合には、本文中の当該箇所、（注 1）あるいは（1）などのように、判りやすく書き込む。

注記は、脚注のかたちをとらずに、本文の最後にまとめて番号順に記載する。

【引用・参考文献の書式】

本文中で文献を引用または参照する場合は、言及した後、著者姓、発行年、参照ページ等の書誌情報を（ ）でくくり、本文に挿入する。ただし、本文中に著者姓が記載されている場合は、冗長な重複を避けるために著者姓を省いてもよい。

例一：制度と呼べるものである（川島一九八〇、八二頁）。

例二：…が要因であろう」（Mahn 1980: 197）と示すように…

例三：…けっして珍しくない（Flaes 2000 山口一九九三）。  
例四：…ベニデズと地主井（二〇〇一）が詳しく述べてい

るので…

例五：新聞記事は東京芸術大学百年史編纂委員会（一九八七、二九七～四〇六頁）を参照。

本文中で引用・言及した文献、楽譜、録音・映像資料等に関するデータは、本文の最後にまとめて掲載する。和文のみの場合は著者名の五十音順、欧文と和文とが混在する場合は、著者名のアルファベット順に記載する。

【引用・参考文献の記載例】

洋書

単行本の書名はイタリック体（イタリック体で表示できない場合は下線で代用）で示す。論文の題目は引用符でくくる。事典項目もこれに準ずる。論文を掲載した雑誌名および書名はイタリック体（イタリック体で表示できない場合は下線で代用）で示す。

・単行本

著者姓、名、出版年、書名、出版地、出版社。

例

Malm, William P. 2000. *Traditional Japanese Music and Musical Instruments* (New Edition). Tokyo: Kodansha International.

・論文

著者姓、名、出版年、論文題目、副題、雑誌名、巻号、ページ。

例

Hood, Mantle. 1960. "The Challenge of Bi-Musicality." *Ethnomusicology* 40(1). pp. 55-59.

・事典項目

執筆者姓、名、出版年、項目名、事典名、出版地、出版社、出版年、巻、ページ。

例

Katz, Israel J. 2001. "Flamenco." *The New Grove Dictionary of Music and Musicians*, 2nd ed., London: Macmillan, vol. 8, pp. 920-925.

漢籍

撰者／編者／輯者／注者などの氏名「書名」、叢書名、抄本／刊本／排印本／影印本などの表示。氏名の前に王朝名を頭書すること。また、巻／部／条／葉など引用箇所の詳細は本文中で示す。

例

宋王灼撰『碧鷄漫志五卷付校勘記』、據知不足齋叢書本排印、中国古典戲曲論著集成第一集所収、中国戯劇出版社、一九五九。

和書

・単行本

著者、出版年「書名―副題―」、出版地、出版社。叢書名／論文集名／翻訳書の場合は原本のデータなど。

例

内田順子二〇〇〇『宮古島狩侯の神歌―その継承と創成―』、京都、思文閣出版。

・論文その他

執筆者名、出版年「論文名―副題―」「雑誌名／書名」、出版地、出版社、巻号、頁。

例一

ホアキン・M・ベニテズ、地土井志保二〇〇一「仏教唱歌の創成と変遷―明治二二―四〇年出版の七冊の楽譜付き仏教唱歌を中心に―」『エリザベト音楽大学研究紀要』第二一巻、四九―六一頁。

例二

小長谷有紀一九九一「モンゴルにおける接客技法としての歌―ホストとゲスト―」石森秀三編『観光と音楽』、東京、東京書籍（民族音楽叢書六）、一七五―二〇六頁。

例三

岸辺成雄、池田弥三郎、郡司正勝監修一九九〇『大系日本の伝統音楽』、筑摩書房、ビクター、PVT K一〇一―一 (VHS / CD)。

【執筆者所属の記載】

執筆者の所属の記載は、原則的に以下の通りとする。

例一 (〇〇大学)

例二 (〇〇大学非常勤講師)

例三 (〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇課程)

例四 (〇〇演奏家)

**【著作権許諾処理について】**

写真、画像、楽譜等の掲載・転載をする場合は、あらかじめ著作権者に掲載の許可を書面で得る。転載をする場合は、出典を明記する。

(二〇二二年八月三二日改訂)